

県立広島大学と連携した地域おこし協力隊の活躍支援の取組

県立広島大学が、平成30年1月に開催した「地域おこし協力隊×学生」とのワークショップに、中国財務局「teamちゅうざい」メンバーが参加し、地域おこし協力隊の円滑な活動や、任期の3年経過後の自立について討議し、把握した課題に対して有用な情報を提供した。

概要

【ワークショップ参加者：64名】

地域おこし協力隊、大学生、地方公共団体職員、
中国財務局職員等



【グループ設定・討議テーマ】

グループ1：「行政との連携」

グループ2：「三年後の自立」

グループ3：「学生とのコラボ」

【ワークショップで把握した課題】

・協力隊・行政・住民が三位一体となつて連携し、協力隊導入に成功している地方公共団体のノウハウがほしい。

・地域の課題解決に取り組むには、専門的な知識・サポートが必要。



取組の成果と今後の展開

【把握した課題に対する中国財務局からの情報提供】

・各地の取組を基に、協力隊・行政・住民3者の連携のために作成された「外部人材導入後の運用チェックリスト」(地域サポート人ネットワーク全国協議会)を紹介。

・協力隊が、外部専門家(ミラサポ)を活用し特産品の開発・販路開拓した事例や、当局管内の金融機関による協力隊支援の取組を紹介。

【他の参加者からの感想及び今後の展開】

・他の参加者からは「課題解決のために情報を提供するなど、財務局の印象が変わった」とのコメントがあった。

・ワークショップ終了後、地方公共団体職員から上記「チェックリスト」を参考にしたいとのコメントがあった。

・当局としては、地域連携に取り組む同大学との継続的な連携を通じて、地方創生支援に取り組むこととしたい。